

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人ひだ文化村	
施 設 名	飛騨市文化交流センター	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,350	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,350	(千円)





(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ランチ・ディナータイム コンサート 2019	2019/4/1～2020/3/31	交響楽団に所属するプロ奏者による、ミニクラシックコンサートと、飛騨市内の各施設へのアウトリーチ事業	目標値	500
		飛騨市文化交流センター 飛騨市内各施設		実績値	380
2	サマーフェスティバル 2019	2019/8/25	ひだ文化村一帯を使用した、官民一体で開催する夏祭りイベントでの、飛騨市内伝統芸能団体の披露	目標値	2,000
		ひだ文化村一帯		実績値	2,500
3	音楽活動学生支援事業	2019/8/15～18	名古屋音楽大学の学生による、音楽合宿後の成果発表会、飛騨市内学生へ対してのインリーチ事業	目標値	300
		飛騨市文化交流センター		実績値	288
4	スピリットガーデン 合唱アウトリーチ事業	2019/10/23～25	東京混声合唱団による、飛騨市内保育園6か所へのアウトリーチ事業、飛騨市小中学校音楽会へのゲスト出演	目標値	500
		飛騨市内保育園6カ所		実績値	817
5	ジャズによる伝統音楽	中止	中止	目標値	200
		中止		実績値	0
6	地域の伝統芸能継承事業	2020/2/23	飛騨市河合町地歌舞伎保存会、神岡町藤橋会による芸能公演	目標値	200
		飛騨市文化交流センター		実績値	484
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

飛騨市文化交流センターが設置されている飛騨市という地域は少子高齢化が進んでおり、2020年4月現在の飛騨市の人口の39.16%が高齢者という超高齢化社会であります。超高齢化社会である飛騨市の問題点として、伝統芸能の継承者不足、地域コミュニティの希薄化、地域の衰退化などが問題点として掲げられており、飛騨市文化交流センターは文化活動を通して、地域住民に生きがいと心豊かな潤いを与え、またあわせて地域に賑わいと活気を創出し、社会教育振興を推進していく拠点として、活動をしていかなければなりません。そういった地域特性を踏まえ、私たちは地域子どもたちや地域住民の方への文化の提供、飛騨市に受け継がれてきた伝統芸能の継承、文化振興の発展、地域の活性化を行うため今回の事業を計画いたしました。

令和元年度の事業では、昨年を引き続き全ての方に平等に文化が提供されるべきであると考え、コンサート開場へ来ることのできない方へ向けた出張コンサートなどを実施した他、飛騨市は僻地に集落があり、その集落で生活されている方などにも主要部の方達と同じようにプロの指導や文化を届ける必要があると考え、各教育機関・介護施設などへこちらから訪問し、プロの指導や訪問演奏会などを実施致しました。今回の事業では飛騨市内の保育園6か所、飛騨市内図書館2か所、飛騨市内老人介護施設3か所へ訪問演奏会を開催することができたほか、飛騨市内の中学校の吹奏楽部へのインリーチ活動が開催できました。その他にもこちらから訪問するだけでなく、地域住民が集まる場所を創出し、多くの住民が集まる場所で伝統芸能の披露を行ったほか、飛騨市内で古くから活動が続いている2つの伝統芸能団体にスポットを当てた伝統芸能公演の開催を行うなど、地域の活性化・伝統芸能の普及を目的とした事業を実施することができました。伝統芸能公演では、歌舞伎の化粧をお客様の前で実演して見せたほか、能の歩き方や鼓のたたき方のワークショップなどを行うなど、一般のお客様にも歌舞伎や能を理解してもらいやすい公演を行うことができました。地元学生へのアウトリーチなど、一部事業においては新型コロナウイルスの影響により、中止となってしまった公演もあったが、全体の9割以上の計画を予定通り行うことができました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

今回の事業では、多くの方に飛騨市内に伝えられている伝統芸能の再認識や、多くの方に音楽文化の提供を行うことができました。伝統芸能を継承していくための礎を作りたいとの考えから、今年度は岐阜県飛騨市に古くから継承されている、地歌舞伎と飛騨薪能藤橋の2つの団体にスポットを当てた公演を行いました。この公演では、400名を超える多くの方に来場していただくことができ、アンケートの中には「何十年と飛騨市に住んでいるが、初めて2つの伝統芸能公演を見ました。」といった声や、「こんな素晴らしい伝統芸能が飛騨市にあったの知らなかった」などの声があるなど、多くの方に周知することができました。そのほかにもすべての方に平等に文化に触れて頂きたいとの考えから、昨年度に引き続き飛騨市内の老人介護施設や飛騨市内図書館で楽器とピアノ（キーボード）による訪問演奏会を開いたほか、アウトリーチ活動として飛騨市内保育園6か所に対して合唱のアウトリーチ活動を行うなど、文化拠点である飛騨市文化交流センターで公演を行うだけでなく飛騨市内各場所へ出向いた文化活動を開催することができました。これらの活動を行った結果、令和2年度は飛騨市内の伝統芸能のアウト・インリーチ活動に協力していただけたという約束もいただくことができたなど、単年度だけの活動にならず今後の継続した伝統芸能の継承に向けた活動を行う地盤を作ることができました。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

令和元年度の事業では昨年度より継続して、すべての人に平等に文化を提供する、飛騨市に伝わる伝統芸能を次世代に継承するため多くの方に伝統芸能を披露するというを課題に目標設定を行いました。

2019年ランチ・ディナータイムコンサートでは以下のように目標を設定いたしました。

・年6回のコンサート 各40名 合計240名

年6回のコンサートでは、過去に行ったランチタイムコンサートの入場者数を参考に決定いたしました。2018年度に4回開催したランチタイムコンサートでは、合計136名の集客があり、一度のコンサートの来客数の平均が34名という結果となっていたので、2019年度は昨年度の約15%増を目標値とし目標値合計240名といたしました。結果、今年度は合計147名の集客となり、コンサートでの来客数の目標は大きく下回る結果となりました。

・年6回のアウト・インリーチ事業、訪問演奏会の来客数40~45名ずつ、合計260名

年6回のアウトリーチ事業では飛騨市内の特別養護施設などの入居者等から参加人数を合計260名と設定を行いました。今回の結果として、参加者数が合計233名と目標に一步届かない結果となってしまいました。

結果、ランチタイムコンサートの目標として合計500名としておりましたが、合計369名の参加となり、目標に届くことができませんでした。

飛騨市文化村サマーフェスティバル2019では、以下の目標を設定いたしました。

・来場者数2,500名

飛騨市の人口が、約24,000名おり、そのうち約20,000名が実際に活動できる方の人数と仮定したとき、その12.5%である人数の2,500名を集客することを目的として活動致しました。

活動の結果、多くの方が集まる場所を創出できより多くの方に伝統芸能に触れていただいた結果、目標である来客者数合計約2,500名（飛騨市役所調べ）の方に来客していただくことができました。

音楽活動学生支援事業では音楽合宿の参加者・成果発表会の来場者の合計を300名と設定しました。

結果、合宿参加者・インリーチ参加者、成果発表会来場者の合計288名に参加していただくことができました。目標であった300名には一步及びみませんでした。概ね期待していた通りの成果を上げることはできたと考えております。

スピリットガーデン合唱アウトリーチ事業では、以下のように目標を設定いたしました。

・飛騨市内の保育園6か所へのアウトリーチ対者数、飛騨市小中学校音楽会の来場者数 合計500名

この事業では、飛騨市内保育園の園児数、例年の飛騨市小中学校音楽会の来場者数より設定を行いました。

結果として園児、保育士、保護者の合計417名の方に参加していただくことができました。

今事業を通して、合計817名の方に参加していただくことができ、目標の500名を大きく上回る数となりました。

飛騨市伝統芸能継承事業では、以下のように目標を設定いたしました。

・伝統芸能公演への来場者数、参加者数合計200名

この事業では飛騨市内の伝統芸能公演の来場者数などから、おおよその来場者数の目測を立て、目標設定を行いました。伝統芸能は内容が難しく理解できないことが多いため、なるべく理解してもらえるよう各団体と打ち合わせを重ね、公演内容を決定致しました。

来場時には、かみ砕いてわかりやすい内容のプログラムの配布、歌舞伎や能のワークショップを公演前に開催することで、伝統芸能に親しみを持てるような内容を作り上げました。また、公演時間が長くなることが予想できたため、飛騨市内のお菓子店数店に声をかけ、休憩時間や開場前にお菓子の提供や販売をしていただけたため、会場に出店していただきました。そういった取り組みの結果、来場者数407名、参加者77名、合計484名と目標を大きく上回る方に来場していただくことができました。

今回のすべての事業を通して、合計4,000名の参加目標を掲げ活動を行った結果、合計4,458名の方に事業に参加していただくことができ、目標を上回る方々に今回の事業に参加していただくことができました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今回の事業を進行していくにあたり、概ね予定通り進めることができました。

飛騨市文化交流センターのスタッフが限られた人数しかいないことや、一部の方に長期的に事業を展開するのではなく、飛騨市内の多くの方へ広く文化活動を提供したいという考えから、事業期間については短期間で効率よく実施できる事業を中心に計画を立てました。

今回の事業では教育機関との調整が不可欠なイベントが多々あり、飛騨市内の小・中学校への事業協力を早い段階から始めました。各教育機関は、前年度の3月までには新年度一年分の予定を大まかに決めてしまうことから、3月より以前に話し合いを進めることで、無理なく予定を組むことができました。

少ない人数でも効率よく事業を行うよう計画し、準備に時間をかけることで、当初の計画通りに事業を進めることができました。

予算に関しては概ね計画通りの支出となりました。少ない予算の中で事業を行うため、チラシのデザインなど自分たちで作成するほか、ボランティアスタッフを活用するなど、少ない予算計画の中でも最大限に事業を行うことができました。

一部計画より多く予算が発生した事業もありました。事業計画を立てる際、各協力機関との話し合いの中で決定した予算案にて事業計画を作成したが、事業計画を作成した後に事業の規模や構想が大きくなってしまい、結果として出演料や謝礼、人件費などが多くなってしまった事業が見られました。

そのほかにも事業を進めていく中で事業計画時には計上していなかった必要経費が発生するなど、予想外の経費が発生してしまった事業もありましたが、概ね計画通りの支出であり、活動内容に適した事業費であったと考えております。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今回の事業では、地域の方々と様々な形で文化的な交流を図る取り組みを行ってまいりました。

飛騨市内は、公共交通機関が1時間にバス・電車が1本程度走っているだけで、移動の手段はほとんどの方が車で移動しております。ですが、飛騨市の特徴として、少子高齢化が進んでおり、車に乗れない方々も多く、飛騨市文化交流センターでイベントを行うだけでは、飛騨市内に平等に文化を届けることができないため、事業を通して、さまざまな出張イベントを計画し、実行を行ってまいりました。

ランチ・ディナータイムコンサート 2019 では、地域のコンサートに来ることができない方々へ対して平等に文化を届けるための活動として、飛騨市内各地の施設への訪問コンサートや飛騨地域の学生の方へ対しての指導など、飛騨市文化交流センターより飛騨市内の各地へ文化を届ける活動。

サマーフェスティバル 2019 では夏祭りイベントを企画し地域交流の場、そして地域コミュニティの創出、伝統芸能文化の披露などを行い、地域の方々が飛騨市文化交流センターへ集まり、文化に触れる活動の展開。

音楽活動学生支援事業では飛騨市に音楽合宿を誘致し、音楽活動を行う学生へ対して合宿活動場所・成果発表の場の提供を行うなど、未来ある若者への音楽活動の活動支援。

スピリットガーデン合唱アウトリーチ事業では、飛騨市文化交流センターに縁のある武満徹をモチーフとし、飛騨市内の園児に対する合唱披露などの一流の音楽に触れる機会の創出や、飛騨市文化交流センターと武満徹との関係を広く周知する活動。

飛騨市伝統芸能継承事業では、飛騨市に古くから継承されている伝統芸能である「地歌舞伎」「飛騨薪能 藤橋」を飛騨市民の皆様に披露し、後世に伝統芸能を継承していくための活動。

以上の活動を行うことで、一部の対象に文化を届けるだけの活動ではなく、広く多種多様な文化を飛騨市内の多くの方へ届けることができ、飛騨市民に文化の拠点として飛騨市文化交流センターを利用していただくことができました。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

飛騨市の抱えている問題として、人口の減少による経済活動の低下・地域コミュニティの希薄化、少子高齢化など様々な問題点が浮かび上がり、その中で文化拠点として何ができるかを考えました。

飛騨市には古くから飛騨市河合町に継承されている「地歌舞伎」、神岡町に継承されている「飛騨薪能藤橋」といった伝統芸能などがあり、この二つの団体は少子高齢化により継承者がいないことが大きな問題となっており、飛騨市の文化芸術活動の発展のため、向き合っていかなければならない問題の一つであるということが判明いたしました。

今回の活動では以上の問題点を踏まえ、まず飛騨地域に伝統文化の周知が必要であると考えました。身近な飛騨市内の方へお話をいくつか聞いたところ、伝統芸能の存在を知ってはいるが見たことがない、存在自体を知らないとの声が多く聞こえてきたほか、そんな伝統芸能があることすら知らなかったとの声も聞こえてくるほどでした。そういった周知が足りていない原因として、飛騨市内での特定地域での公演しか行っていないことが一つの大きな原因と考え、今回の事業では多くの方に伝統芸能を披露する場を創出する必要があり、たくさんの方に伝統芸能を知っていただくために、一度に多くの方を集客する必要があると考えました。

それぞれの公演を別々に行ってしまうと、集客が分散されてしまうことが予想されたため、二つの団体の公演を一度に行うよう計画しました。一度に行うことで、多くの方の集客が望めるほか、片方の団体にしか興味がない方にも、両方の公演を見て頂くことができると考えたからです。

公演当日には、イベントを行うほかに飛騨市内の銘菓店3店舗に協力をいただき、会場で出店していただくことで、さらなる集客を図るとともに、地域のコミュニティの活性化を図ることもできました。

公演本番ではただ公演を行うのではなく、一般の参加者を巻き込んで実際に動き方や化粧の実演を体験していただく等のワークショップを行い、もっと身近に伝統芸能に触れて頂く場を提供することができました。

公演終了後のアンケートにも、「飛騨市にこんな素晴らしい伝統芸能があることを知らなかった」「伝統芸能があると、聞いたことはあったが見たことが無かったので、初めて見ることができました」などの声をいただくことができたなど、当初の目的である飛騨市民への周知ができた公演となったと考えております。

今年度の事業は不特定多数の方に周知する目的で事業を行いました。来年度の事業では伝統芸能をもっと具体的に感じていただくための活動として、小学校や中学校へのワークショップ体験や一般の方へのワークショップ体験など、より近い位置での体験活動を行っていくことで、より地域の皆様に伝統芸能が根付いていくよう活動を続けていきたいと考えております。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

今回の事業を通して、多くの地域住民の方々に NPO 法人ひだ文化村の活動を見ていただき、飛騨市内の多くの市民、法人の方々に協力をいただきました。

昨年、飛騨市文化交流センター・高山市民文化会館・飛騨世界生活文化センター・下呂交流会館アクティブの 4 館で連絡協議会を立ち上げました。昨年度は、立ち上げたばかりで方向性が定まっておりましたが、今年度は定期的に連絡会を開催し、各ホールが行うイベントについて調整を行いました。これにより、飛騨市・高山市・下呂市で行うイベントやアウトリーチ、目的などを明確にすることにより、各団体が効率よく事業を遂行していくことができました。平成 31 年度終盤はコロナウイルスの影響により、事業の中止や延期が相次ぎ、販売したチケットの払い戻し対応などが多発しました。この、チケットの払い戻し時の手数料の負担などを、4 館の連絡協議会にて話し合い、有事の際のチケット払い戻し時の手数料については免除するなどの取り決めをすることができ、各館の負担を減らすことができました。

NPO 法人ひだ文化村では、法人賛助会員・ガーデンメイト会員という制度を軸に、飛騨地域の企業・個人の方々に会員になっていただき、賛助していただくという制度があります。今年度の法人賛助会員の数は昨年度から増減が無く、賛助金の増加には至りませんでした。

今後財政状況のさらなる安定化のため、NPO 法人ひだ文化村で発行している会報誌である「ひだ文化村」への広告制度の導入、施設利用条件の緩和による施設利用料の増加など、新しい取り組みを検討していきたいと考えております。

その他に、今年度から電力会社との契約を見直し電気代の削減などを行ってまいりました。支出を増やし、財源負担を減らすことで、長期的に安定して従業員を雇用することができると考えております。

長期的に従業員が働ける環境を整えることで、法人としての体制を安定期に運営できるほか、クオリティの高い事業計画を行うことができるような体制を整えることができました。

その他にも法人賛助会員やガーデンメイト会員の方へのチケットの先行発売の検討や、会員向けのサービスを充実させることで会員数を増やし、NPO 法人ひだ文化村の安定した運営を行えるよう、各サービスを充実していきたいと考えております。

その他にも、各事業を高いレベルで計画・実行できるよう、職員全員に公益社団法人全国公立文化施設協会が主催しているアートマネジメント研修をはじめとした各研修や勉強会に参加させ、スキルアップを図ってまいりました。今後も継続的に各研修に参加することでスキルアップを図り、よりレベルの高い事業を計画・実行できるようにしていきたいと考えております。